



# 「自分の夢に 自信持って」

## 鷹匠・石橋さん（武雄市）

タカやフクロウなど「猛きん」といわれる鳥を操り、害鳥や害獣の駆除をしている武雄市の鷹匠・石橋美里さん（22）が14日、嬉野市の塩田中で講演しました。「私の生きる道」と題し、自身が受験や猛きんの調教で努力してきた経験を語ったほか、相棒のタカを飛ばすデモンストラーションも披露し、子どもたちは珍しい職業を通して自分の進路についても考えました。（志垣直哉）

石橋さんは、自身が高校受験前に一生懸命勉強して成績が上がっていった経験をもとに「行動＋継続＝財産」という図式を示し、「何かを継続して続けていると必ず財産となり返ってくる」と説明。「タカの調教も同じ。訓練を継続させるための餌を与えて、調教された鳥にしていく」と独自の解釈で、継続する意義を強調しました。

その上で「人間は自分の生き方を選べる。自分の夢に自信を持ち、当たり前前のごとをやっていたら評価されるようになる」と経験を踏まえてエールを送りました。またデモンストラーションとして、

### 嬉野市の塩田中で講演

笛を吹いて数十人が離れた場所からタカを呼び寄せたり、100人以上の生徒を2列に並ばせて作ったトンネルの中をタカにくぐらせたたりする技も披露。タカは生徒たちの頭上すれすれを音もなく飛ばすなど、パワーマンズにどよめく場面もありました。

講演会は、身近で活躍している人の姿を子どもたちに見てもらいたい、進路を考える上でのヒントにしておらうと、同校PTAが企画しました。3年の福田剛司さんは「タカのことだけでなく、進路など自分たちが抱えている問題についてもアドバイスしてくれ、勉強になりました」と話していました。

タカを育て、訓練する人。古墳時代から権威の家紋として支配者に好まれた「鷹狩り」を支えました。第2次世界大

鷹匠

戦後は激減した職業ですが、カラスやハト、サメなど人の暮らしに害を与える鳥や動物を追い払う効果が注目されています。石橋さんはこの仕事でも活躍しています。